

Recent Development of Nursing Ethics in Psychiatry

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): キーワード (En): nursing, ethics, psychiatry 作成者: 荻野, 雅 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/933

精神科医療看護における倫理の動向

Recent Development of Nursing Ethics in Psychiatry

荻野 雅¹
Masa Ogino

要 旨

本論文は、精神科医療看護における倫理について、過去10年間の文献を検討し、その動向を明らかにしたものである。

文献検索データベースとして psycINFO, MEDLINE, CINAHL の3つを用い, “nursing”, “ethics”, “psychiatry” をキーワードとして文献を検索し, 48 件の文献を対象とした。分析方法は主題分析である。その結果, 「認知症・高齢者の看護における倫理」「司法精神科医療看護における倫理」「一般精神科医療看護における倫理」の3つのカテゴリーに分けることができた。認知症・高齢者看護に関する論文では, 認知症を患うことで意思決定能力が低下した場合, 患者の意思を尊重した意思決定をどのようにすべきかが論じられていた。司法精神科医療看護に関する論文では, 患者の治療と保護監督という矛盾する社会的使命を担ったことでさまざまな倫理的問題を抱えていることが明らかにされていた。一般精神科医療看護に関する論文では, 精神疾患により患者が自分の利益を判断できないことが生じ, 医療者が患者に代わり患者の最善を考えた医療看護を提供すべきというパターナリズムと, 患者の自己決定権を尊重すべきという専門職者としての正義の対立から倫理的問題が生じていることが明らかにされていた。この問題の解決のためにガイドラインの整備, 事前指示の導入, 倫理原則を適用するよりも医療者と患者の関係性からアプローチするという3つがあげられていた。

キーワード：倫理 Ethics 看護 Nursing 精神科 Psychiatry

Abstract

The aim is to clarify the recent development of nursing ethics in psychiatry through to examining the literature during the past ten years.

The databases of psycINFO, MEDLINE, and CINAHL were used and the keywords were “nursing”, “ethics”, and “psychiatry” for literature survey. Forty eight documents were analyzed by thematic analysis.

At the results, three categories of “the ethics in nursing for cognitively impaired elderly people”, “the ethics in forensic psychiatric nursing”, and “the ethics in psychiatric nursing” were identified.

The determination of decision-making process in elderly people with dementia was discussed. In nursing for cognitively impaired peoples’ patients’ intentions were respected.

It became clear that there were various ethical problems due to the contradictions between social mission of medical treatment for patients and protection of supervisor in forensic psychiatric nursing.

It was clarify that the ethical dilemma was caused by the conflict of paternalism vs justice in psychiatric nursing. Paternalism is the view that a health professional should consider a patient’s best benefit and decide the medical treatment for patient. The justice is the view that a health professional should protect patient’s

1 武蔵野大学看護学部看護学科 Musashino University, Faculty of Nursing

self determination.

Three solutions for ethical problems were proposed: preparation of the guidelines, introduction of advances directives and application of the relational ethics approach rather than ethical principles.

Keywords: “nursing”, “ethics”, “psychiatry”

1. はじめに

近年の医療の著しい進歩に伴い、医療者の善意のみでは対応できない問題が医療現場で生じるようになった。終末期医療、生殖医療などの発展によって私たち医療者は、生命の尊厳とは何か、医療者としてどうあるべきかをあらためて問われている。

精神科医療は、生命倫理とはまた異なった倫理的問題を抱えている。精神科医療の対象となる精神病は、古くから偏見にさらされており、弱者として保護される者とみなされてきた。昨今の当事者意識の高まりとともに、ノーマライゼーション、リハビリテーションの理念を基盤として、精神科医療看護における倫理について再考されつつある。

2. 問題の背景——看護倫理の歴史の変遷

倫理とは、人としての何をすべきかという価値・信念あるいは行為・行動であり、あるいは人として何を行うことが正しいのか、間違っているのか、人間の行いで何が善で何が悪かを検討することである。よって医の倫理とは、医師として行う正しい行動とは何かを検討することであり、あるいは何が正しいのかあるいは間違っているのかを示す指針であり、その指針に基づいた行動を指す(福井ら、2003)。

医師としての倫理を説いた一番古いものは「ヒポクラテスの誓い」である。そこには「私は能力と判断の限り患者に利益すると思ふ養生法をとり、悪くて有害と知る方法を決してとらない」(厚生省健康政策局医事課、1985)とある。医師としてどうあるべきかを追求した考えは、徳の倫理を基盤としている(小西、2007)。徳の倫理とは、人としてどうあるべきかその理想像を追求し、倫理原則ではなく、なされるべき行為の性質や行為者の性格に注目するものである(小西、2007)。専門職者としての高い倫理観を持つ、徳を備えた医療者の善行・無害は、患者に最善の利益をもたらすと考えられており、現在の医療での基盤となっている。そのため専門職者としてどうあるべきか、医療者には高い倫理観が求められ、その行動のための指針である倫理綱領や倫理コードが作られている。

看護師も医師と同様に専門職者としての倫理について早

くから取り組んでいた。1893年にヒポクラテスの誓いをもとに「ナイチンゲール誓詞」が作られ、1953年には国際看護師協会大会で看護師の倫理に関する国際的な綱領が採択されている。当時は看護専門職としての倫理観もやはり徳の倫理を基盤としたものであった。

しかし1950年代からおこった人権に関わるさまざまな市民運動の中で、患者の権利意識も高まってきた。医療者の善意を基盤として、患者の利益のために患者に代わって医療者が意思決定をするということは、パターンリズムであると批判されることとなった。患者自身が自分で医療を選択するという考え方がおこった。

一方、科学技術の進歩により出生前診断や尊厳死といった人の生命をめぐる新たな倫理的問題も生じてきた。これらの医療をめぐる複雑な倫理的問題は、医療者の善行・無害の考え方では解決できない問題であった。この問題を解決するための示唆として、生命倫理の原則をまとめたのがBeauchampとChildress(1989)である。倫理的問題に対し、医療者として何をすべきかということを倫理原則にのっとって考え、行動すべきであるという考え方へと移行してきた。

看護倫理においても、倫理原則に基づいて倫理的問題を考える考え方へと移行してきた。一方でその考え方が看護の実情に即していないことも違和感として残った。看護は従来、患者に寄り添い、患者を中心とした考え方が求められる。患者を取り巻く状況を客観的に捉え倫理原則に当てはめ、医療者としてどうあるべきかを考え、自分の行動の選択を決定するよりは、患者に専心し、今患者が何を望んでいるのか患者の立場に立って考えて自分の行動を決定することが多い。つまり、患者との関係性における責任や個人的絆から、今、自分が何をするのが正しいのかを考えるケアリング倫理(Noddings, 1984)の考え方が、看護倫理として検討されるようになってきた。

複雑な倫理的問題が生じている現在の臨床で、医療の一端を担う看護師は、看護師としてどうあるべきかという高い倫理観をもち、また倫理原則に基づいて行動を選択することが求められている。その中でも、患者の自己決定権を尊重し、患者の権利擁護をするアドボカシー役割を担うことが看護として重要であると考えられるようになってきた(Fry, 2002)。

3. 研究目的

精神科看護における倫理に関する問題は、上記のような背景を有している。本論文は、精神科医療看護における倫理について、過去10年間の文献を検討し、精神科医療看護における倫理の動向を明らかにし、今後の課題を論じることを目的としている。

4. 文献検討方法

文献検索方法は、psycINFO, MEDLINE, CINAHLのデータベースを用い、“nursing”, “ethics”, “psychiatry”をキーワードとした。検索条件は、発行年が2001～2011年、論文種類は学術論文、言語を英語・日本語とした。

文献の要旨を主な分析対象とした。文献の要旨がない、あるいは要旨では詳細な内容がわからない場合には、本文を分析対象とした。分析方法は主題分析(Braun, V., Clarke, V., 2006)を用いた。論文の概要、著者の主張あるいは結論を抽出し、そこから主題を明らかにし、類似性でカテゴリー化を行った。精神科医療看護における倫理についての動向を考察した。

5. 結果

1) 文献検索の結果

文献検索の結果、79件の文献がヒットした。そのうち、重複している論文、精神科医療看護および倫理に関連しない論文を削除したところ、59件となった。59件の文献のうち、精神科医療の問題や精神看護の専門職の機能が主題であり、倫理そのものが主題ではない文献11件を除き、検討する対象文献を48件とした。対象文献の一覧が表1である。

対象文献は大きく3つのカテゴリーに分けることができた。「認知症・高齢者の看護における倫理」「司法精神科医療看護（心神喪失状態で重大な他害行為を行った者への医療及び看護）における倫理」「一般精神科医療看護（精神病を対象とした精神科における医療及び看護）における倫理」の3つである（表2）。

2) 精神科医療看護における倫理の現状

(1) 認知症・高齢者の看護における倫理

認知症・高齢者の意思決定の在り方を探求した論文が6件、認知症・高齢者に追跡装置をつけることの倫理的問題を論じた論文1件、認知症・高齢者への医療における倫理的配慮についての声明が1件であった。高齢者が認知症を患うことで意思決定能力が低下し、またその意思を確認で

きなくなった場合、患者の意思を誰がどのように判断するのかが問われていた。そのために有効な手段として考えられている事前指示は、実践上では問題も多い。特に治療を拒否する事前指示や安楽死についての指示は、患者の意思よりも医療上の判断がおこなわれていることが多いことをde Boer (2010)は指摘している。

(2) 司法精神科医療看護（心神喪失状態で重大な他害行為を行った者への医療及び看護）における倫理

司法精神科医療看護における倫理的問題を提起し、そのあり方を探求した論文が9件、司法精神科医療従事者への教育方法についての論文が2件、司法精神科医療看護の質の改善方法の探求についての論文が2件、司法精神科医療看護における治療プログラムを検討する論文が2件であった。

司法精神科医療看護における倫理的問題として、Coffey (2002)は地域で生活をする司法精神科医療監督下における患者の強制的治療について、またKoller (2002)は司法精神科病棟での患者のプライバシーが守られない状況について、倫理的問題として言及している。さらに、医療者が患者を差別的な隠語で表現していたり(Peternelj-Taylor, 2004)、医療者が患者に対してあからなさまな不信感をもっている(Wendy, 2009)など、医療専門職者としての倫理観の低さを指摘した論文もあった。

司法精神科医療および看護において人権侵害が生じていると指摘している論文がある一方で、Peternelj-Taylor (2004)は、司法精神科医療看護における倫理的問題の根源は、触法（法に触れる）行為をした精神障害者に対する治療と監督の対立であると述べている。患者の治療を優先するのか、社会正義のための患者の保護監督を優先するのか。医療者は、相対立する二つの社会的使命を担っている。この社会的使命の矛盾により、倫理的問題が生じていると指摘している。Mason (2002)は、司法精神科医療看護について法的な立場で考えるのか医療としての立場から考えるのか、その対立を考慮して検討しなければならないと述べている。

相反する社会的使命を担っている司法精神科医療看護で生じる倫理的問題解決の示唆として、Mason (2009)は、倫理的問題に対して医療者の行動指針となるガイドラインを作成することを提案している。しかしガイドラインは行動の指針であり、倫理は個人の内面の規範である(Kohlberg, 1987)。ガイドラインのみでは、倫理的問題を解決する専門職としての倫理観や責任を培うことはできない。医療者としての倫理観をもって、目の前で生じている倫理的問題の解決に取り組む必要がある。

臨床現場で生じる倫理的問題解決には、倫理原則を適用し倫理的推論過程を展開して解決を目指して討論していく方法がある。しかし、Wendy (2009)の論文からは、こ

表1 対象文献一覧

	題名	第一著者	掲載誌	主題および概要	結論	論文種類
認知症・高齢者の看護における倫理	1	Richter J; Eisemann MR	International Journal Of Nursing Studies [Int J Nurs Stud] 2001 Aug; Vol. 38 (4), pp. 381-8.	高齢の重症疾患患者の治療における看護師の意思決定に関する要因とその根拠にある態度についての、ドイツとスウェーデンの看護師の国際比較調査論文。	スウェーデンの看護師は、認知障害のレベル、ドイツの看護師は、患者の年齢、希望、そして倫理的視点が意思決定に関連していた。多くの看護師は事前指示やDNRを活用しており、患者の意思に反するCPRに対しては反対であった。	質問紙による実態調査
	2	Welsh, S.	Aging & Mental Health, Vol 7(5), Sep, 2003, pp. 372-375.	高齢の認知症患者や知的障害者に追跡装置を付けることについての倫理的問題を検討した論文。著者は、科学技術を用いることは人間の尊厳や自由を侵害する可能性がある、リスクと利益の対立という視点から慎重に考えねばならないと主張している。		総説
	3	de Boer, Marike E.	International Psychogeriatrics, Vol 22(2), Mar, 2010, pp. 201-208.	認知症患者の事前指示は、患者をケアする際の医療者の意思決定にどのように貢献しているか、事例を通して倫理的視点から検討した論文。	事前指示は患者の意思を治療やケアに生かす有効な手段であるが、実践上では問題も多い。特に治療を拒否する事前指示や安楽死についての指示は、患者の意思よりも医療上の判断がおこなわれている場合が多い。	事例検討
	4	Kim, Scott Y.H.	Alzheimer's & Dementia, Vol 6(4), Jul, 2010, pp. 342-350.	認知症患者を対象とした研究における家族等の代理人の同意について、一般の人々を対象に教育的プログラムを提供し、その認識の変化を明らかにした論文。	教育プログラムは、認知症患者の代理人としての家族の同意についての社会的ポリシーや患者に対する責任についての知識を提供し、参加者が果たすべき代理人機能についてグループワークを取り入れた。そのプログラムを受けることで、参加者は代理人としての家族の責任についての認識が高まった。	教育プログラムによる介入研究
	5	Huizing, Anna R.	International Journal of Geriatric Psychiatry, Vol 21(9), Sep, 2006, pp. 869-875.	認知症患者のケアにおいて抗認知薬の使用、認知症の早期診断、患者の不合理な要求など、倫理的問題であると文獻で指摘されている問題について、認知症患者をケアしている介護者がどのように認識しているか、半構成的インタビューを行い検討した論文。	認知症患者の介護者は抗認知薬の使用、認知症の早期診断、患者の不合理な要求など倫理的な問題であるという認識はなかった。	半構成的インタビューによる実態調査
	6	Malloy, D. C.	Journal of Medical Ethics: Journal of the Institute of Medical Ethics, Vol 34(4), Apr, 2008, pp. 285-296.	異文化の背景を有している医師により構成されたグループのディスカッションを通じ、医師が直面している倫理的ジレンマについて明らかにした論文。	異文化の背景を持つ医師は、高齢者の治療における意思決定において、文化的価値観と倫理原則が対立し、倫理的ジレンマを感じていた。	グループインタビューによる実態調査
	7	Nicola, Nicola.	International Journal of Geriatric Psychiatry, Vol 24(3), Mar, 2009, pp. 226-231.	オーストラリアのシドニーの3つのナーシングホームに在居中の認知症患者に向精神薬を用いる際の規定とその順守について医療記録を調査した論文。	処方の同意を得ていない、薬物投与量を記載していないなど記録の不備が多かった。規定があっても守られていない現状が明らかとなった。	記録を対象とした実態調査
	8	Katona, C.	International Journal of Geriatric Psychiatry, Vol 24(12), Dec, 2009, pp. 1319-1324.	世界精神科連盟における高齢者精神医療部門からの高齢者への医療における倫理的配慮と高齢者の能力の査定について声明		声明
司法精神科医療看護における倫理	9	Peternelj-Taylor C	The Canadian Journal Of Nursing Research = Revue Canadienne De Recherche En Sciences Infirmières [Can J Nurs Res] 2004 Dec; Vol. 36 (4), pp. 130-46.	司法精神科医療及び看護において、患者に対して差別的な語彙を用いることで患者の脱人格化を促す現象がみられる。医療者と患者、監督するものとされるという関係性、治療と監督といった対立する社会的使命がこれらの現象を引き起こしており、これらの問題について倫理的視点から検討した論文。		総説
	10	Nesset, Merete Berg.	Scandinavian Journal of Caring Sciences, Vol. 23(1), Mar, 2009, pp. 117-124.	司法精神科病棟の看護スタッフに環境療法の講義からなる教育プログラムを受けてもらい、その前後で患者を対象にWard Atmosphere Scale (WAS)と満足度調査を用いて、病棟の医療の質が改善されたかどうかを検討した論文。	Ward Atmosphere Scale (WAS)ではサブスケールの「関与」「サポート」「実質的なオリエンテーション」「怒りや攻撃的な行動」「指示」「組織」の項目が、患者の満足度がじょうしょうした。サブスケールのスタッフのコントロールは変化がなかった。	教育プログラムによる介入研究
	11	Holmes, Dave; Murray, Stuart J.	Journal of Nursing Management (J NURS MANAGE), 2011 Apr; 19(3): 293-301	司法精神科治療で行われている、患者に市民としての教養を身につけさせるプログラムのbehaviour modification programmes (BMPs)について、他の行動療法プログラムと比較検討した論文。著者はbehaviour modification programmes (BMPs)について科学的根拠もなければ倫理的でもないと主張している。		総説
	12	Plichta JE	Journal Of Forensic Nursing [J Forensic Nurs] 2008; Vol. 4 (3), pp. 143-6.	死刑囚精神疾患患者のケアについて倫理的問題、法的問題、そして専門職としてのように対応すべきかを論じた論文。		総説
	13	Mason T	Journal Of Psychiatric And Mental Health Nursing [J Psychiat Ment Health Nurs] 2002 Oct; Vol. 9 (5), pp. 511-20.	司法精神科医療における看護師が直面する困難さについての文献レビュー。	文献検討の結果、司法精神科に関わる看護師が直面している困難さとして、否定的か肯定的か、安全か治療か、暴力の管理か治療的な効果か、訓練か文化的育成か、という主題があらわらなくなった。結論として司法精神科医療に関わる看護が直面する困難さは、医学的枠組みで考えるか、法的枠組みで考えるかという二律背反が基盤となっている。	文献検討
	14	Williams, Dian L.	Journal of Forensic Nursing, Vol 3(2), Jun, 2007, pp. 93-94.	司法精神科医療における看護でパターナリズムのケースを紹介した論文		総説
	15	Mason T; Williams R; Vivian-Byrne S	Journal Of Psychiatric And Mental Health Nursing [J Psychiat Ment Health Nurs] 2002 Oct; Vol. 9 (5), pp. 563-72.	イギリスの司法精神科ユニットでの多職種チームの研究プロジェクトの報告である。多職種チームは効果的な方法だとされているが、職種の違いによる緊張も存在する。職種により主とする倫理コード（原則）が異なり、それが主な緊張となっていることを事例を通して考察している。		実践報告
	16	Coffey M; Jenkins E	Journal Of Psychiatric And Mental Health Nursing [J Psychiat Ment Health Nurs] 2002 Oct; Vol. 9 (5), pp. 521-9.	司法精神科医療における地域精神保健看護師の、拘束の指示の経験と指導した退院システムについての記述的研究。	司法精神科医療における地域精神保健看護師は、チームの意思決定に加わっていることに満足しており、専門職としての責任が増えることを望ましいと考えていた。地域における司法精神障害者への強制的な指示は、実用的な判断として行われていると認識していることが明らかとなった。	記述的研究
	17	Koller K; Hantikainen V	Nursing Ethics [Nurs Ethics] 2002 Jul; Vol. 9 (4), pp. 347-60.	司法精神科医療の二人の患者のナラティブな語り現象学的に分析し、プライバシーの意味を探索した論文である。	司法精神科医療プライバシーは責任であり、人間の基本的権利ではないことが明らかとなった。そのような状況で看護師は患者に倫理的な役割を果たすことが求められると示唆している。	現象学的研究
	18	Charies CE	Issues In Mental Health Nursing [Issues Ment Health Nurs] 2010 Jun; Vol. 31 (6), pp. 432-4.	犯罪を犯した精神障害入院患者へ、市民としての教養の能力を提供するケアの意義について述べた論文。		総説

	題名	第一著者	掲載誌	主題および概要	結論	論文種類	
司法精神科医療看護における倫理	19	Relational ethics in forensic psychiatric settings.	Austin Wendy	Journal Of Psychosocial Nursing And Mental Health Services [J Psychosoc Nurs Ment Health Serv] 2001 Sep; Vol. 39 (9), pp. 12-7.	司法精神科医療での倫理的問題を検討したろんぶん。司法精神科医療では、患者の監督か治療かという対立の中で、倫理的問題が生じている。この倫理的な問題に対して、オープンな対話、多側面からの熟考、背景の理解といった関係性のアプローチが解決の示唆となると主張している。	総説	
	20	Special observations in forensic psychiatric practice: gender issues of the watchers and the watched.	Mason T; Mason-Whitehead E; Thomas M	Journal Of Psychiatric And Mental Health Nursing [J Psychiatr Ment Health Nurs] 2009 Dec; Vol. 16 (10), pp. 910-8.	司法精神科医療の特別観察における性的問題についての半構造的インタビューによる実態調査。	実態調査	
	21	Swedish forensic nursing care: nurses' professional contributions and educational needs.	Rask M; Aberg J	Journal Of Psychiatric And Mental Health Nursing [J Psychiatr Ment Health Nurs] 2002 Oct; Vol. 9 (6), pp. 531-9.	スウェーデンにおける4つの司法精神科施設で働く看護師を対象とした質問紙調査。どのようなケアが、ケアや組織の改善に貢献しているかを明らかにした論文。	その組織のケアや質の改善には、信頼、共感、尊重、責任を基盤とした患者看護師関係、ケアの本質にのったケアが有効である。患者看護師関係、ケアの質を改善することのできるケアの本質を教育する必要性を示唆している。	質問紙調査
	22	The ethics of forensic psychiatry: Moving beyond principles to a relational ethics approach.	Austin, Wendy.	Journal of Forensic Psychiatry & Psychology, Vol 20(6), Dec, 2009, pp. 835-850.	司法精神科医療の在り方を検討した論文。司法精神科医療は、正義と現実が対立している現場であると感している。司法精神科医療の倫理は生命倫理原則では解決できない問題であると著者は主張している。	司法精神科医療は、正義と現実が対立している現場であると感している。司法精神科医療の倫理は生命倫理原則では解決できない問題であると著者は主張している。	総説
	23	Towards a 'forensic lens' model of multidisciplinary training.	Mason T; Carton G	Journal Of Psychiatric And Mental Health Nursing [J Psychiatr Ment Health Nurs] 2002 Oct; Vol. 9 (6), pp. 541-51.	司法精神科医療における多職種トレーニングの「司法レンズモデル forensic lens model」の有効性についての文献レビュー。	司法精神科医療における多職種トレーニングを検討し、司法レンズモデルは多職種トレーニングの枠組みとして活用できることを主張。特別な訓練がいる司法精神科医療では、各々の領域における実践的なトレーニングを行うことが必要であると主張している。	文献レビュー
一般精神科医療看護における倫理	24	Whistleblowing and boundary violations: exposing a colleague in the forensic milieu.	Peternelj-Taylor C	Nursing Ethics [Nurs Ethics] 2003 Sep; Vol. 10 (5), pp. 526-37; discussion 537-40.	司法精神科医療における性的な暴力のケースを通して、内部告発について論じた論文。同僚を訴えることについて、権利について倫理的側面から慎重に検討しなければならぬと主張している。	司法精神科医療は、正義と現実が対立している現場であると感している。司法精神科医療の倫理は生命倫理原則では解決できない問題であると著者は主張している。	総説
	25	Is it acceptable for a psychiatrist to break confidentiality to prevent spousal violence?	Guedj, Myriam,	International Journal of Law and Psychiatry, Vol 32(2), Mar-Apr, 2009, pp. 108-114.	精神科医が、守秘義務を破って患者の他害の可能性を患者のパートナーに伝えることは是非について、一般の人々、医師、看護師、心理士を対象として調査した論文。	一般の人々も医療従事者も守秘義務を破ることについては状況に夜という回答が一番多かった。一般の人々は、医師や看護師に比べ守秘義務を破ることを望んでいた。	実態調査
	26	Nurses' and physicians' educational needs in seclusion and restraint practices.	Kontio R; Välimäki M; Putkonen H; Cocoman A; Turpeinen S; Kuosmanen L; Joffe G	Perspectives In Psychiatric Care [Perspect Psychiatr Care] 2009 Jul; Vol. 45 (3), pp. 198-207.	看護師、医師を対象に、フォーカスグループを用いて、拘束、隔離についての教育的必要性を探求した論文。	看護師、医師は、拘束、隔離をすることについて、病棟での問題に即した教育と管理的なサポートを必要としている。マンパワーの不足や拘束、隔離の高い比率がある現場では、倫理原則は意味がないと述べられている。	実態調査
	27	Mental health advocacy with black and minority ethnic communities: Conceptual and ethical implications.	Newbigging, Karen,	Current Opinion in Psychiatry, Vol 20(6), Nov, 2007, pp. 588-593.	黒人、少数民族への精神保健のアドボカシーについて示唆を述べた論文。黒人や少数民族のコミュニティの人々は、最近の精神保健アドボカシーの理念の発展による、アドボカシーの恩恵にはあらずに、しかし1983年に打ち立てられた精神障害者の精神保健アドボカシーを基盤とするには、異なる要因が含まれているので通しておらず、アドボカシーの概念をさらに探求することが必要であると主張している。	黒人、少数民族への精神保健のアドボカシーについて示唆を述べた論文。黒人や少数民族のコミュニティの人々は、最近の精神保健アドボカシーの理念の発展による、アドボカシーの恩恵にはあらずに、しかし1983年に打ち立てられた精神障害者の精神保健アドボカシーを基盤とするには、異なる要因が含まれているので通しておらず、アドボカシーの概念をさらに探求することが必要であると主張している。	総説
	28	Caring for the involuntarily hospitalized adolescent: the issue of power in the nurse-patient relationship.	Biering P	Journal of Child & Adolescent Psychiatric Nursing (J CHILD ADOLESC PSYCHIATR NURS), 2002 Apr-Jun; 15(2): 65-74	思春期年代で強制的入院治療を受けている患者と看護師の関係について、ミシェル・フーコーの力と権力という視点から探求した論文。強制的入院治療という限り、患者看護師関係の力の不均等は避けられないことを理解し、看護の平等という理想へ向けてのガイドラインが必要であると主張している。	思春期年代で強制的入院治療を受けている患者と看護師の関係について、ミシェル・フーコーの力と権力という視点から探求した論文。強制的入院治療という限り、患者看護師関係の力の不均等は避けられないことを理解し、看護の平等という理想へ向けてのガイドラインが必要であると主張している。	総説
	29	Coerced medication in psychiatric inpatient care: literature review.	Jarrett M; Bowers L; Simpson A	Journal Of Advanced Nursing [J Adv Nurs] 2008 Dec; Vol. 64 (6), pp. 538-48.	精神科入院患者の強制的薬物療法について、文献レビューを通して、その患者の属性や臨床状況を明らかにした論文。	7つの国の14の論文を検討した結果、患者は30歳代、診断は統合失調症、双極性障害、その他精神病、入院形態は強制的入院の患者が強制的薬物療法を受ける傾向にあった。強制的薬物療法の主な理由は、暴力あるいは暴力のリスクであった。	文献レビュー
	30	Coercion or collaboration? Nurses doing research with people who have severe mental health problems.	Davies, Bronwen R,	Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing, Vol 12(1), Feb, 2005, pp. 106-111.	研究協力の同意について倫理的視点から検討した論文。子どもを持つ女性の入手可能なメンタルヘルスサービスを明らかにした論文を題材に、研究協力の同意について倫理的に検討している。研究協力の同意は、協力者に説明理解し同意する能力があるかという点では、倫理的問題をはらんでおり、その判断に関して精神科医の査定だけでは不十分である。研究対象者の同意する能力について倫理的討議をする必要性を主張している。	研究協力の同意について倫理的視点から検討した論文。子どもを持つ女性の入手可能なメンタルヘルスサービスを明らかにした論文を題材に、研究協力の同意について倫理的に検討している。研究協力の同意は、協力者に説明理解し同意する能力があるかという点では、倫理的問題をはらんでおり、その判断に関して精神科医の査定だけでは不十分である。研究対象者の同意する能力について倫理的討議をする必要性を主張している。	総説
	31	Creating trust in an acute psychiatric ward.	Hem, Marit Helene,	Nursing Ethics, Vol 15(6), Nov, 2008, pp. 777-788.	急性期精神科病棟での患者看護師関係について論じている論文。看護では患者との信頼関係は非常に重要な概念であるが、急性期精神科病棟においては信頼というよりも不信としかいえない患者看護師関係であると述べている。信頼関係を作るのは、専門職者としての責任であると主張している。	急性期精神科病棟での患者看護師関係について論じている論文。看護では患者との信頼関係は非常に重要な概念であるが、急性期精神科病棟においては信頼というよりも不信としかいえない患者看護師関係であると述べている。信頼関係を作るのは、専門職者としての責任であると主張している。	総説
	32	Dangerous and severe personality disorder: an ethical concept?	Glen S	Nursing Philosophy: An International Journal For Healthcare Professionals [Nurs Philos] 2005 Apr; Vol. 6 (2), pp. 98-105.	重症の人格障害患者の治療・ケアについての倫理的視点から論じた論文。精神医療従事者の多くは重症の人格障害患者に対して、治療をすることに躊躇しており、それは人格障害患者に治療として提供できるかと思っているからである。人格障害患者は、人の痛みがわからないというように、倫理的責任を負う能力がないように思われている。危険で重症な人格障害患者は、医療従事者も含めた一般の人々の倫理的概念に簡単に当てはまらない。彼らの倫理的な責任能力のアセスメントを彼らの周りの環境を考慮した上で査定をする必要があると主張している。	重症の人格障害患者の治療・ケアについての倫理的視点から論じた論文。精神医療従事者の多くは重症の人格障害患者に対して、治療をすることに躊躇しており、それは人格障害患者に治療として提供できるかと思っているからである。人格障害患者は、人の痛みがわからないというように、倫理的責任を負う能力がないように思われている。危険で重症な人格障害患者は、医療従事者も含めた一般の人々の倫理的概念に簡単に当てはまらない。彼らの倫理的な責任能力のアセスメントを彼らの周りの環境を考慮した上で査定をする必要があると主張している。	総説
	33	A review of basic patient rights in psychiatric care.	Cady RF	JONA's Healthcare Law, Ethics And Regulation [JONAS Health Law Ethics Regul] 2010 Oct-Dec; Vol. 12 (4), pp. 117-25; quiz 126-7.	精神科における患者の権利について論じた論文。患者の権利について、医療者は当然知っておかねばならない概念だが、精神科においてはやや混乱して知られている。看護管理者は、スタッフが患者の権利について理解し、人権を守ることができるよう指導しなければならないと主張している。	精神科における患者の権利について論じた論文。患者の権利について、医療者は当然知っておかねばならない概念だが、精神科においてはやや混乱して知られている。看護管理者は、スタッフが患者の権利について理解し、人権を守ることができるよう指導しなければならないと主張している。	総説
	34	Antipsychotic depot medication and attitudes of community psychiatric nurses.	Patel MX; DE Zoysa N; Baker D; David AS	Journal Of Psychiatric And Mental Health Nursing [J Psychiatr Ment Health Nurs] 2005 Apr; Vol. 12 (2), pp. 237-44.	デポ剤の使用は地方によってその使用方法が異なる。ロンドンの地域精神保健看護師を対象に、質問紙を用いて、デポ剤についての知識と認識を横断的に調査した論文。	多くの地域精神保健看護師はデポ剤の治療を取り入れていた。看護師は医師よりも、デポ剤は患者の自立性のある程度阻害し強制的であると思っていた。デポ剤についての知識や副作用について知っている看護師はデポ剤の使用に肯定的であった。デポ剤についての教育が必要性を述べている。	質問紙による実態調査
	35	Do psychiatric advance directives protect autonomy?	Bosek, Marcia Sue DeWolf,	JONA's Healthcare Law, Ethics, and Regulation, Vol 10(1), Jan-Mar, 2008, pp. 17-26.	精神科事前指について論じた論文。精神科事前指示は、患者の自己決定権、自立・自律を保護し、害を避け、患者の利益を促進する。しかし臨床状況で実施する際には、その長所、短所を今後十分に検討しなければならないと主張している。	精神科事前指について論じた論文。精神科事前指示は、患者の自己決定権、自立・自律を保護し、害を避け、患者の利益を促進する。しかし臨床状況で実施する際には、その長所、短所を今後十分に検討しなければならないと主張している。	総説
	36	Physical restraint in acute care psychiatry: a humanistic and realistic nursing approach.	Moylan LB	Journal Of Psychosocial Nursing And Mental Health Services [J Psychosoc Nurs Ment Health Serv] 2009 Mar; Vol. 47 (3), pp. 41-7.	急性期精神科病棟における身体拘束について、人間主義的な観点から論じた論文。人間主義の立場にたてば、身体拘束は患者や他の患者の安全を守るために行われるものであるが、その患者の尊厳や自立性を侵害するものである。身体拘束をするにおいては法律と倫理的観点の両方からそのバランスを考慮して判断されなければならない。最終的には、拘束のない環境を目指すべきであると主張している。	急性期精神科病棟における身体拘束について、人間主義的な観点から論じた論文。人間主義の立場にたてば、身体拘束は患者や他の患者の安全を守るために行われるものであるが、その患者の尊厳や自立性を侵害するものである。身体拘束をするにおいては法律と倫理的観点の両方からそのバランスを考慮して判断されなければならない。最終的には、拘束のない環境を目指すべきであると主張している。	総説
37	Problematising special observation in psychiatry: Foucault, archaeology, genealogy, discourse and power/knowledge.	Stevenson, C.,	Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing, Vol 13(6), Dec, 2006, pp. 713-721.	精神科病室のリスクの高い人々を観察指導することは、発症予防に有効であるといわれている。自殺のリスクの高い人々への予防的観察において、ミシェル・フーコーの「知と権力」という観点から検討した論文。結論として、医療者が予防的観察を行い発症を予防することはその個人の利益となるという考え方は、医療者の権力を高めるために行われていると主張している。	精神科病室のリスクの高い人々を観察指導することは、発症予防に有効であるといわれている。自殺のリスクの高い人々への予防的観察において、ミシェル・フーコーの「知と権力」という観点から検討した論文。結論として、医療者が予防的観察を行い発症を予防することはその個人の利益となるという考え方は、医療者の権力を高めるために行われていると主張している。	総説	

	題名	第一著者	掲載誌	主題および概要	結論	論文種類	
一般精神科医療看護における倫理	38	Psychiatric ethics: A critical introduction for mental health nurses.	Roberts, M.	Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing, Vol 11(5), Oct, 2004, pp. 583-588.	精神科看護における看護倫理を説いた論文。多くの精神科看護師は日々の看護実践で倫理的問題に直面している。精神科における倫理的問題はパターナリズムと正義に関連していると述べ、日々の看護実践を倫理的視点から批判的に考えていく必要を主張している。	総説	
	39	Questionable requirement for consent in observational research in psychiatry.	Hem, Marit Helene.	Nursing Ethics, Vol 14(1), Jan, 2007, pp. 41-53.	精神科急性期病棟での研究協力について論じた論文。研究協力についての説明と同意は協力者の権利を守る重要な倫理的手段であるが、精神科急性期の病棟での研究協力の説明と同意は強制的な治療の中、研究協力の同意は形骸化していた。同じような3つのケースを紹介し、研究協力の同意と説明には、その状況に応じて協力者の人権を守る必要性を論じている。	総説	
	40	Research with the doubly vulnerable population of individuals who abuse alcohol: an ethical dilemma.	Gwyn PG; Colin JM	Journal Of Psychosocial Nursing And Mental Health Services [J Psychosoc Nurs Ment Health Serv] 2010 Feb; Vol. 48 (2), pp. 38-43.	精神疾患患者の研究協力同意について論じた論文。アルコール依存症で虐待を受けた経験のある患者は、高齢であったり、女性であるなど二重の脆弱性を背負っていることが多い。これらの方々を研究対象にする場合には細心の倫理的配慮が必要であると主張している。	総説	
	41	Restraint and the question of validity.	Paterson B; Duxbury J	Nursing Ethics [Nurs Ethics] 2007 Jul; Vol. 14 (4), pp. 535-45.	精神科病棟における患者の拘束について論じた論文。患者を拘束することについて妥当性は、十分な論議がなく暗黙のうちに取り扱われてきた。拘束をする妥当性は法的な側面、実践的な側面両方から検討されねばならないと主張している。	総説	
	42	Restraint: cause for concern.	Grout G; Garrett D	Nursing Older People [Nurs Older People] 2008 Jul; Vol. 20 (6), pp. 16.	高齢者精神障害者の拘束のガイドラインについての論文。高齢者精神保健福祉サービスの従事者が患者から暴力を受けることに対するガイドラインはない。暴力を振るう高齢精神障害者への拘束の基準を確立する必要性を述べ、自分の経験からその具体策を挙げている。	総説	
	43	Restraints and the code of ethics: An uneasy fit.	Mohr, Wanda K.	Archives of Psychiatric Nursing, Vol 24(1), Feb, 2010, pp. 3-14.	拘束についていつの生命倫理原則に即して考察した論文。倫理的に考えると拘束は複雑で多面的な問題である。倫理原則に当てはめて考察しても問題をより複雑化するだけに過ぎなかったと結論付けている。	総説	
	44	Seclusion and its context in acute inpatient psychiatric care.	Cleary, Michelle.	Journal of Medical Ethics: Journal of the Insitute of Medical Ethics, Vol 36(8), Aug, 2010, pp. 459-462.	精神科急性期における隔離について現在の論議を検討した論文。隔離は患者と他の患者の安全を守るために行うものであるが、できる限り行わないことが望ましいと述べている。	総説	
	45	To be a nurse or a neighbour? A moral concern for psychiatric nurses living next door to individuals with a mental illness.	Högberg T; Magnusson A; Lützn K	Nursing Ethics [Nurs Ethics] 2005 Sep; Vol. 12 (5), pp. 468-78.	精神障害者の近隣に住む、精神科看護師の体験の聞き取り調査。	精神科看護師は専門的知識を持っているので、私的な時間でも看護師として役割を取るべきであると考えている。しかし私的な時間までもケアすべきなのか、倫理的なジレンマも抱えていると述べている。	インタビュー調査
	46	Use of holding, restraints, seclusion and time-out in child and adolescent psychiatric in-patient treatment.	Sourander, A., Turku U.	European Child & Adolescent Psychiatry, Vol 11(4), Dec, 2002, pp. 162-167.	フィンランドにおける児童精神科病棟入院中の504人の患者についての拘束、隔離の実態調査。	患者が攻撃的な行動をとるときに隔離や行動制限が行われている。治療期間が長ければ行動制限を受けることも多いことを明らかにしている。行動制限のガイドラインの必要性を主張している。	実態調査
47	Use of tasers on people with mental illness: A New Zealand database study.	O'Brien, Anthony J.	International Journal of Law and Psychiatry, Vol 34(1), Jan-Feb, 2011, pp. 39-43.	文献を検討することを通して、ニュージーランド警察による高電圧銃の使用のうち、精神健康上の問題が生じている人々がどの程度含まれているのかを明らかにした論文。	高電圧銃を使用した人物の21%が精神症状を持っていた。高電圧銃の使用は、犯罪に対してよりも精神症状により暴力状態になっている人物に使用される割合が高かった。	文献レビュー	
48	Whose life is it anyway? An exploration of five contemporary ethical issues that pertain to the psychiatric nursing care of the person who is suicidal: Part one.	Cutcliffe, John R.	International Journal of Mental Health Nursing, Vol 17(4), Aug, 2008, pp. 236-245.	自殺について倫理的に考察した論文。身体を傷つけないリスクから個人を守るというパターナリズムは、個人の身体は個人のものであるという権利を侵害している。倫理的観点から厳密に論じると自殺もひとつの権利であると主張している。	総説		

表2 文献検討結果：カテゴリー

	カテゴリー	サブカテゴリー	題名
認知症・高齢者の看護における倫理	認知症・高齢者の意思決定の在り方		Attitudinal patterns determining decision-making in severely ill elderly patients: a cross-cultural comparison between nurses from Sweden and Germany.
			Advances directives in dementia: Issues of validity and effectiveness.
			Deliberative assessment of surrogate consent in dementia research.
			Do caregivers' experiences correspond with the concerns raised in the literature? Ethical issues relating to anti-dementia drugs.
			Ethical decision-making about older adults and moral intensity: An international study of physicians.
	認知症・高齢者に追跡装置をつけることの倫理的問題		Substitute consent for nursing home residents prescribed psychotropic medication.
	認知症・高齢者への医療における倫理的配慮		Big brother is watching you-the ethical implications of electronic surveillance measures in the elderly with dementia and in adults with learning difficulties.
司法精神科医療看護における倫理	司法精神科医療における倫理的問題の提起と司法精神科医療の在り方	司法精神科医療における倫理的問題の提起（患者に対する差別的な隠語）と司法精神科医療の在り方	World Psychiatric Association Section of Old Age Psychiatry consensus statement on ethics and capacity in older people with mental disorders.
		司法精神科医療における倫理的問題の提起（看護師の直面している困難さ）と司法精神科医療の在り方	An exploration of othering in forensic psychiatric and correctional nursing.
		司法精神科医療における倫理的問題の提起（パターナリズム）	Exploring ethical, legal, and professional issues with the mentally ill on death row.
		司法精神科医療における倫理的問題の提起（地域における強制的な治療）	Forensic psychiatric nursing: a literature review and thematic analysis of role tensions
		司法精神科医療における倫理的問題の提起（プライバシー）	Is there a case for paternalism in forensic nursing?
		司法精神科医療における倫理的問題の提起と司法精神科医療の在り方	Power and control: forensic community mental health nurses' perceptions of team-working, legal sanction and compliance.
		司法精神科医療における倫理的問題の提起（特別観察）と司法精神科医療の在り方	Privacy of patients in the forensic department of a psychiatric clinic: a phenomenological study.
		司法精神科医療における倫理的問題の提起と司法精神科医療の在り方	Relational ethics in forensic psychiatric settings.
	司法精神科医療における治療プログラムの検討		Special observations in forensic psychiatric practice: gender issues of the watchers and the watched.
			The ethics of forensic psychiatry: Moving beyond principles to a relational ethics approach.
	司法精神科医療の質の改善方法の探究		Civilizing the 'Barbarian': a critical analysis of behaviour modification programmes in forensic psychiatry settings.
			Providing culturally competent care for the criminally insane inmate.
	司法精神科医療従事者への教育方法についての検討		Can a focused staff training programme improve the ward atmosphere and patient satisfaction in a forensic psychiatric hospital? A pilot study.
			Swedish forensic nursing care: nurses' professional contributions and educational needs.
	司法精神科医療従事者の内部告発について		Multi-disciplinary working in a forensic mental health setting: ethical codes of reference.
		Towards a 'forensic lens' model of multidisciplinary training.	
一般精神科医療看護における倫理	精神科医療における問題（拘束隔離）	精神科医療における倫理的問題（拘束隔離）	Whistleblowing and boundary violations: exposing a colleague in the forensic milieu.
		精神科医療における倫理的問題（拘束）	Nurses' and physicians' educational needs in seclusion and restraint practices.
		精神科医療における倫理的問題（拘束）	Physical restraint in acute care psychiatry: a humanistic and realistic nursing approach.
		精神科医療における倫理的問題（拘束）	Restraint and the question of validity.
		精神科医療における倫理的問題（拘束）	Restraint: cause for concern.
		精神科医療における倫理的問題（拘束）	Restraints and the code of ethics: An uneasy fit.
	精神科医療における倫理的問題（強制的治療）	精神科医療における倫理的問題（強制的治療）	Seclusion and its context in acute inpatient psychiatric care.
		精神科医療における倫理的問題（強制的薬物治療）	Use of holding, restraints, seclusion and time-out in child and adolescent psychiatric in-patient treatment.
	精神科医療における倫理的問題（研究協力の同意）		Caring for the involuntarily hospitalized adolescent: the issue of power in the nurse-patient relationship.
			Coerced medication in psychiatric inpatient care: literature review.
			Antipsychotic depot medication and attitudes of community psychiatric nurses.
	精神科医療における倫理的問題（守秘義務）		Coercion or collaboration? Nurses doing research with people who have severe mental health problems.
			Questionable requirement for consent in observational research in psychiatry.
	精神科医療における倫理的問題（アドボカシー）		Research with the doubly vulnerable population of individuals who abuse alcohol: an ethical dilemma.
			Is it acceptable for a psychiatrist to break confidentiality to prevent spousal violence?
	精神科医療における倫理的問題（人格障害）		Mental health advocacy with black and minority ethnic communities: Conceptual and ethical implications.
			Dangerous and severe personality disorder: an ethical concept?
	精神科医療における倫理的問題（事前指示）		Use of holding, restraints, seclusion and time-out in child and adolescent psychiatric in-patient treatment.
			Do psychiatric advance directives protect autonomy?
	精神科医療における倫理的問題（特別観察）		Problematising special observation in psychiatry: Foucault, archaeology, genealogy, discourse and power/knowledge.
			Whose life is it anyway? An exploration of five contemporary ethical issues that pertain to the psychiatric nursing care of the person who is suicidal: Part one.
	精神科における看護倫理		Creating trust in an acute psychiatric ward.
			A review of basic patient rights in psychiatric care.
	精神障害者の近隣に住む精神科看護師の倫理的ジレンマ		Psychiatric ethics: A critical introduction for mental health nurses.
			To be a nurse or a neighbour? A moral concern for psychiatric nurses living next door to individuals with a mental illness.
警察が高電圧銃を使用して拘束した身柄のうち精神障害者に割合について		Use of tasers on people with mental illness: A New Zealand database study.	

の方法では司法精神科医療看護で生じている倫理的問題を解決するには難しいことが推測される。なぜなら Wendy (2009) は、司法精神科医療看護で生じている倫理的問題に、倫理原則を適用して問題解決を図ることは、状況をさらに複雑にするだけで効果がないと指摘している。同様に Austin (2001) も倫理原則を適用してその解決を図る困難さを述べており、司法精神科医療看護の倫理的問題を解決するためには、医療者と患者の“関係性”におけるアプローチをもちいべきと主張している。

(3) 一般精神科医療看護（精神病を対象とした精神科における医療及び看護）における倫理

精神科における看護倫理について論じた論文が3件、精神科医療看護における倫理的問題を取り上げた論文が19件、その他として「精神障害者の近隣に住む精神科看護師の意識調査」「警察が高電圧銃を用いて確保した身柄のうちの精神障害者の割合」の2件であった。

精神科医療看護における倫理的問題については、強制的治療を焦点として論じている論文は10件であった。そのうち一番多かったのは、隔離拘束の7件である。隔離拘束のほかに、強制的治療について論じた論文は、強制的治療1件、強制的薬物治療2件であった。

論文で取り上げられている精神科医療看護における倫理的問題について、強制的治療の次に多かったのが、研究における説明と同意の問題であり、3件の論文があった。他には、「特別観察」「守秘義務」「自殺」「アドボカシー」「人格障害」「事前指示」についての論文が各1件であった。

精神科医療看護における倫理的問題について強制的治療を取り上げている論文が一番多かったということは、精神科医療看護においてはその疾患の特徴から、患者の意思に反して治療が強制的に行われることがあり、この治療看護のあり方が倫理的問題であることを示している。精神科医療看護では、強制的に治療を行うことで容易に患者の人権を侵害する素地があるため、Cady (2010) や Helen (2007) は看護者として患者の人権を守るべきであることを強調している。

患者の人権を医療者が守るために、精神科医療看護においては法的な整備をしている国が多くある。さらに、患者の人権を守るための具体的な行動指針としてガイドラインを整備すべきだと、Biering (2002)、Grount (2008) や Sourander (2002) が主張している。

一方、倫理原則など、あるべき論では精神科医療看護の倫理的問題を解決できないとの主張もある。Kontio ら (2009) や Wanda (2010) は、隔離拘束についての倫理的問題を考えるのに、倫理的問題を適用するだけでは現実の精神科医療看護の実態に即していないと指摘している。Paterson (2007) も同様に、拘束という倫理的問題は法律

的な立場のみならず医療の現場の実態からも検討しなければならぬことを指摘している。

Roberts (2004) は、この精神科医療看護の倫理的問題の根源は、パターンリズムと正義の対立であると指摘している。患者自身が精神疾患により自分の最善の利益を判断できないので、医療者が患者に代わり患者の最善を考えた医療看護を提供すべきというパターンリズムと、患者の自己決定権を擁護すべきという専門職者としての正義の対立である。

患者の自己決定権を擁護する方策のひとつとして事前指示（意思決定不能状態に陥った場合の医療ケアに関する個人的希望を、事前に判断し指示するもの）がある。精神科における事前指示の有効性を検討しているのは、DeWolf (2008) である。一方でパターンリズムの関係は、医療者（看護師）と患者の関係性により左右されるものである (Stevenson, 2006; Helen, 2008)。Biering (2002) は、患者看護関係の力の不均衡さは避けられないことを理解し、看護をする中で関係性の平等を考慮していかなければならないと主張している。さらに倫理的問題の解決のためにはお互いの信頼を基盤とした患者看護関係の成立が大前提であり、Helen (2008) は、信頼関係を築くのは、看護師の専門職者としての倫理的責任であると述べている。

6. 考 察

1) 精神科医療看護における倫理的問題が生じている領域

対象文献は「認知症・高齢者の看護における倫理」「司法精神科医療看護における倫理」「精神科医療看護における倫理」の3つに大きく分けることができた。

認知症患者は、欧米諸国では増加傾向にある。認知症により意思決定ができなくなった場合、誰が患者の人権を擁護するのか、法的な整備もふくめて現在、検討されねばならない重要な問題である。

同様に、司法精神科医療看護も最近、法的整備がされ始めた領域である。日本でも、2005年に殺人や放火などの重大犯罪行為を行った心神喪失者等に対し、犯罪の原因となった病状を改善するとともに、同様の行為を再度起さないために、継続的かつ適切な医療を提供し社会復帰に結びつけることを目的とした心神喪失者等医療観察法が施行された。それまでは、犯罪行為を行った精神障害者は精神科医療看護の対象とされていたため、精神科医療看護が社会の安全を担う社会的使命も負っていた。司法精神科医療の確立は、精神科医療をその使命から開放することとなった。一方で司法精神科医療看護が患者の治療と保護監督という、矛盾する社会的使命を担ったことでさまざまな倫理的問題を抱えることとなった。

司法精神科医療看護についての文献では、その倫理的問題を指摘するだけでなく、治療プログラムやスタッフの教育なども探求されている。今後、さらに質の向上に向けた研究が発展すると考える。

2) 精神科医療看護における倫理についての今後の示唆

社会の安全を守る使命から開放された精神科医療看護でも、精神疾患により患者が自分の最善の利益を適切に判断できないとみなされているため、医療者が患者に代わり患者の最善を考えた医療看護を提供すべきというパターンリズムと、患者の自己決定権を擁護すべきという専門職者としての正義の対立から倫理的問題が生じていた。

この倫理的問題の解決のために文献が提案していたのは、ガイドラインの整備、事前指示の実践的な導入、そして倫理原則を適用するよりも医療者と患者の関係性からアプローチするという3つである。この解決策は、患者の治療と監督保護という対立する矛盾を抱えている司法精神科医療看護の文献でも提示されていた。

臨床で生じる倫理的問題に対するガイドラインの整備は必要である。特に精神科医療看護では精神疾患の特徴から患者の意思に反して治療看護が行われる実情があり、欧米諸国を始め多くの国では、精神科疾患患者の人権を保護するための法的整備がされている（WHO, 2005）。しかしガイドラインや法律はあくまでも行動の指針であり、倫理的問題を解決するというよりは、最低限の人権保護をするための医療者の行動指針でしかない。患者の人権を保護するためのガイドラインや法律遵守は、Kohlberg (1987) の述べる道徳的発達段階の第4段階に該当し、医療者としての倫理観や責任を育成するものではなく、むしろ医療者の倫理的感受性を低下させる危険性もある。医療者は専門職者としての倫理観と責任を持って倫理的問題の解決に当たる必要がある。

一方、高齢の認知症患者の人権保護のために浸透してきている事前指示を、精神科医療看護に導入することは、患者の自己決定権を保証するひとつの手段として期待することができる。しかし高齢認知症患者の事前支持について de Boer (2010) が指摘しているように、治療拒否や安楽死など、一般的な社会常識では個人の利益を損なうと考えられるような患者の意思に対しては、医療者の判断が優先されている場合が多い。患者の意思が適切かどうかを誰が判断するのか。適切とは何か。事前指示の精神科医療看護での導入においても、実践的な導入の検討に加え、自己決定権の本質を探究しなければならないだろう。

一般精神科医療看護においても司法精神科医療看護においても、生じている倫理的問題の解決には、倫理原則を適用するより医療者と患者の関係性からアプローチすること

が有効であると示唆されていた。自己の権利を守ることができない患者に代わり、医療者は患者に専心し、専門職者としての責任をもって患者との信頼関係を築き、その信頼関係を基盤として患者の最善を考え判断する、ケアリング倫理によるアプローチである。しかしこのアプローチは、専門職者としての倫理観に頼るものであり、またパターンリズムに陥る危険性がある。

患者の人権を擁護するためには、患者自身が何を望んでいるのか、耳を傾け、尊重することが求められる。しかし上述したように患者の意思が適切かどうか、つまり患者の意思が他人の権利を侵害せず、現実的に本人の利益となるのかどうかも考えていかねばならない。そのためには、専門職者としての倫理的責任に立脚しながら、患者と対話 dialog あるいは会話 discourse を通して、その内容を記録し、患者の権利擁護となっているのか倫理的視点から検討していくことが必要である。

今回の文献検討を通して、精神科医療看護の倫理に関する論文は、総説が多く研究論文は少なかった。研究論文も実態調査にとどまっていたのが現状であることが明らかとなった。精神科医療看護の倫理的問題に関する基礎的な研究が必要である。それには、精神科医療看護の問題を解決するための患者との対話あるいは討論をつぶさに記述し、倫理的視点から検討を重ねていくことから始めなければならないと考える。

引用文献

- Beauchamp, T.L. Childress, J. F. (1989) / 永安幸正, 立木教夫訳 (1997) 生命医学倫理, 成文堂.
- Biering P. (2002) Caring for the involuntarily hospitalized adolescent: the issue of power in the nurse-patient relationship. *Journal of Child & Adolescent Psychiatric Nursing*, 15(2), pp65-74.
- Braun, V., & Clarke, V. (2006) . Using thematic analysis in psychology. *Qualitative Research in Psychology*, 3, 77-101.
- Bosek, Marcia Sue DeWolf, (2008) Do psychiatric advance directives protect autonomy? *JONA's Healthcare Law, Ethics, and Regulation*, Vol 10(1), pp. 17-26.
- Cady RF (2010) A review of basic patient rights in psychiatric care. *JONA's Healthcare Law, Ethics And Regulation*, Vol. 12 (4), pp. 117-25.
- Coffey M; Jenkins E (2002) , Power and control: forensic community mental health nurses' perceptions of team-working, legal sanction and compliance. *Journal Of Psychiatric And Mental Health Nursing*, Vol. 9(5), pp. 521-529.
- de Boer, Marika E. (2010) , Advances directives in dementia: Issues of validity and effectiveness. *International Psychogeriatrics*, Vol 22(2), pp. 201-208.
- Fry, S.T., Jonston, M. J. (2002) / 片田範子, 山本あい子訳 (2005) 看護実践の倫理, 第2版, 日本看護協会出版会.
- 福井次矢, 浅井篤編集 (2003) 臨床倫理学入門, 医学書院.

- Noddings, N. (1984) / 立山善康他訳 (1997) ケアリング 倫理と道徳の教育 女性の観点から, 晃洋書房.
- Hem, Marit Helene (2007) Questionable requirement for consent in observational research in psychiatry. *Nursing Ethics*, Vol 14(1), pp. 41-53.
- Hem, Marit Helene (2008) Creating trust in an acute psychiatric ward. *Nursing Ethics*, Vol 15(6), pp. 777-788.
- 厚生省健康政策局医事課編 (1985) 生命と倫理について考える - 生命と倫理に関する懇話報告, 医学書院.
- Koller K; Hantikainen V. (2002) , Privacy of patients in the forensic department of a psychiatric clinic: a phenomenological study. *Nursing Ethics*, Vol. 9(4), pp. 347-60.
- Kohlberg, L., Higgins, A., (1987) / 岩佐信道訳 (1987) , 道徳性の発達と道徳教育: コールバーグ理論の展開と実践, 広池学園出版部
- Kontio R; Välimäki M; Putkonen H; Cocoman A; Turpeinen S; Kuosmanen L; Joffe G (2009) Nurses' and physicians' educational needs in seclusion and restraint practices. *Perspectives In Psychiatric Care*, Vol. 45(3), pp. 198-207.
- Mason T (2002) , Forensic psychiatric nursing: a literature review and thematic analysis of role tensions, *Journal Of Psychiatric And Mental Health Nursing*, Vol. 9(5), pp. 511-520.
- Mason T; Mason-Whitehead E; Thomas M (2009) , Special observations in forensic psychiatric practice: gender issues of the watchers and the watched. *Journal Of Psychiatric And Mental Health Nursing*, Vol. 16(10), pp. 910-918.
- Paterson B; Duxbury J (2007) Restraint and the question of validity. *Nursing Ethics* Vol. 14(4), pp. 535-45.
- Paterson B; Duxbury J (2008) Restraint: cause for concern. *Nursing Older People*, Vol. 20 (6) , pp. 16.
- Peternelj-Taylor C (2004) , An exploration of othering in forensic psychiatric and correctional nursing. *The Canadian Journal Of Nursing Research = Revue Canadienne De Recherche En Sciences Infirmières*, Vol. 36(4), pp. 130-146.
- Stevenson, C. (2006) Problematizing special observation in psychiatry: Foucault, archaeology, genealogy, discourse and power/knowledge. *Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing*, Vol 13(6), pp. 713-721.
- Sourander, A., Turku U, (2002) Use of holding, restraints, seclusion and time-out in child and adolescent psychiatric in-patient treatment. *European Child & Adolescent Psychiatry*, Vol 11(4), pp. 162-167.
- Mohr, Wanda K., (2010) Restraints and the code of ethics: An uneasy fit. *Archives of Psychiatric Nursing*, Vol 24(1), pp. 3-14.
- Wendy, A. (2009) The ethics of forensic psychiatry: Moving beyond principles to a relational ethics approach. *Journal of Forensic Psychiatry & Psychology*, 20(6), pp. 835-850.
- Austin Wendy (2001) Relational ethics in forensic psychiatric settings. *Journal Of Psychosocial Nursing And Mental Health Services* Vol. 39(9), pp. 12-7.
- WHO (2005) Mental Health Atlas, http://www.who.int/mental_health/evidence/mhatlas05/en/index.html (2011.09)